総合周産期母子医療センター（産科部門）

1. スタッフ（2019年４月１日現在）

センター長	（教　授）	山形　崇倫
副センター長	（教　授）	松原　茂樹
分娩部部長	（教　授）	大口　昭英
母体胎児集中治療部部長	（准教授）	薄井　里英
院内助産所部長	（准教授）	薄井　里英
医員	（准教授）	高橋　宏典
	（講　師）	馬場　洋介
	（講　師）	鈴木　寛正
	（助　教）	永山　志穂
病院助教	13名	

２．特徴

当センター産科部門は母体・胎児集中治療部と分娩部、院内助産所の３部門で構成されている。

獨協医大同センターと協力し栃木県の周産期医療の中心的施設として診療にあたっている。病床は58床（母体胎児集中治療ベッド12床、一般ベッド46床）で運営している。さらに、栃木県の周産期連携センターでもあり、母体搬送の受け入れ先を確保する業務を担っている。３次施設としてのセンター機能を十分に果たすと共に、地域医療施設としての一般妊産婦診療まで幅広く行っている。また院内助産所ラヴィでは大学病院という安全な環境のもとに妊婦主体のアットホームな分娩産褥サポートを提供している。

施設認定、専門医•認定医は産科アニュアルレポートに掲載

３．クリニカルインディケーター

Ⅰ．母体・胎児集中治療管理部

１．入院患者総数

2018年の入院患者総数は1561人であった。

２．入院の適応

順位	適応疾患	
1	分娩のための入院	664
2	新生児疾患	247
3	多胎妊娠管理	98
4	切迫早産	77
5	流産、人工妊娠中絶	69
6	他科疾患合併妊娠管理	66
7	羊水検査	53
8	前置胎盤・低置胎盤	47
9	産褥異常	41
10	妊娠高血圧症候群、HELLP	38
11	胎児発育不全	26
12	切迫流産	22
13	妊娠悪阻	18
14	前期破水	17
15	頚管縫縮術	14
16	子宮内胎児死亡（22週以降）	10
17	卵巣腫瘍合併妊娠（手術を含む）	9
18	胎児機能不全・胎盤機能不全	6
19	常位胎盤早期剥離	6
20	羊水量の異常	4
21	胎児形態異常	3
22	その他	26
		1561

３．診療実績

分娩総数	948
単胎	851
双胎	96
品胎	1
多胎率	10.2%
帝王切開術	486
帝王切開率	51%
吸引分娩	44
鉗子分娩	0
頚管縫縮術	28
子宮内容除去術	39

４．センター母体搬送受け入れ実績

母体搬送要請は175件あった。当院で受け入れた症例は137件であり、残りの38件は妊娠週数、病状に応じて、連携センターとして受け入れ先を探した。

５．母体搬送時診断

1．切迫早産	34
2．産褥異常（*）	30
3．切迫流産・流産	15
4．妊娠高血圧症候群、HELLP症候群、子癇	12
5．前期破水	7
6．急性腹症	6
7．胎児発育不全	5
8．妊娠悪阻	4
9．常位胎盤早期剥離	3
10．他科疾患合併	3
11．羊水量の異常	1
12．卵巣腫瘍合併妊娠	1

13. 前置胎盤・低置胎盤	1
14. 子宮内胎児死亡	1
15. その他	14
合計	137

*産褥異常症例の内訳
弛緩出血11件、胎盤遺残８件、腟外陰血腫５件、仮性子宮動脈瘤３件、子宮内反症１件、子宮筋腫変性１件、産褥精神病１件

６．近県との連携

県外へ搬送した症例　　０件
栃木県外から当院へ受け入れた症例　　15件
（茨城８件、埼玉４件、群馬１件、その他２件）

Ⅱ．分娩部

2018年の総分娩数は948件であり、単胎851件、双胎96件、品胎１件となっている。

帝王切開

単胎	851
帝王切開数	392
帝王切開率	46%
双胎	96
帝王切開数	93
帝王切開率	96%
品胎	1
帝王切開数	1
総分娩数	948
総帝王切開数	486
総帝王切開率	51.2%
緊急帝王切開数	185
緊急帝王切開率	38%

１．帝王切開の適応は、カルテ記載から主な適応症１つを選んでいる。その他の項目には母体合併症例、胎児形態異常例が含まれる。

帝王切開の適応

	件数
１．既往帝切	139
２．多胎	94
３．前置胎盤（低置胎盤を含む）	45
４．胎児機能不全	40
５．分娩停止	37
６．筋腫、既往子宮手術	32
７．胎位異常	25
８．妊娠高血圧症候群(子癇、HELLPも含む)	22
９．児頭骨盤不均衡	11
10. FGR、胎盤機能不全	4
11. 常位胎盤早期剥離	4
12. 絨毛膜羊膜炎	3
13. その他	30
計	486

２．単胎では、早産が110件（12.9%）だった。34週未満の分娩は40件（4.7%）、28週未満の分娩は、13件（1.5%）だった。妊娠41週以降の分娩は77件（9.0%）、過期産は15件（1.7%）あった。

単胎分娩週数分布

出産週数	2018年
22	2
23	2
24	2
25	2
26	3
27	2
28	2
29	1
30	4
31	5
32	11
33	4
34	10
35	19
36	41
37	164
38	198
39	154
40	148
41	62
≧42	15
不明	0
計	851

３．単胎出生体重のうち低出生体重児は156例(18.3%)、巨大児は６例（0.7%）であった。そのうち1500g未満の児は31例（3.6%)、1000g未満の児は16例（1.8%）であった。

単胎出生児体重分布

出生児体重（g）	出生数
～499	4
500～999	12
1,000～1,499	15
1,500～1,999	23
2,000～2,499	102
2,500～2,999	314
3,000～3,499	316
3,500～3,999	59
4,000～	6
計	851

４．双胎は、早産が48件（50.0%)、34週未満分娩は14

件（14.5%）、28週未満の分娩は３件（3.1%）だった。

双胎分娩週数分布

出産週数	件数
22～27	3
28	0
29	2
30	1
31	2
32	2
33	4
34	6
35	8
36	20
37	46
38	2
≧39	0
計	96

５．双胎は、低出生体重児は147例（76.5%）あった。1500g未満の児は19例（9.8%）、1000g未満の児は７例（3.6%）だった。

双胎出生児体重分布

出生児体重（g）	出生数
～499	4
500～999	3
1,000～1,499	12
1,500～1,999	28
2,000～2,499	99
2,500～2,999	44
3,000～3,499	2
3,500～	0
計	192

６．出産年齢の分布は下記の通りである。10代出産の割合はここ数年かわっていない。高年出産は394例（41.5%）と多く、40歳以上の割合が127例（13.3%）だった。

出産年齢分布（括弧内は多胎）

年齢	件数
総分娩数	948（97）
若年（19歳以下）	8（0） 0.8%
35-39歳	267（29） 28.1%
40歳以上	127（16） 13.3%
高年（35歳以上）	394（45） 41.5%

４．2019年の目標・事業計画等

周産期連携センターとして、獨協医大と当院が良好な関係を保ちながら、栃木県内の母体搬送はスムーズに行われている。今後も行政や、総合･地域周産期母子医療センターと協力し、栃木県の周産期医療の発展に努めたい。